

---

# リモコン

古尾 光

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

リモコン

### 【Nコード】

N1179I

### 【作者名】

古尾 光

### 【あらすじ】

帰り道に見つけた奇妙な店。そこには不思議なりモコンが売っていた。

変な露店を見つけた。あまり人が通らない脇道、普段なら気が付かずに通り過ぎてしまうような場所。そこにひっそりと露店があった。

「一つ買っていきますか？」

店にはリモコンが置いてある。しかし、それだけしかない。リモコンならば操作するものがあるはずなのだが、それが無い。

「奇妙に思いますか？これは人を操作するリモコンなんですよ」

変なことを言い出す。人を操作するリモコン？馬鹿馬鹿しい。

「人と言っても他人じゃありません。自分を操作するんです」

ますます訳が分からない。自分の身体は自分で動かせる。身体が麻痺している人間ならば多少は使えるだろうが、そうでもない。

「毎日、毎日同じような仕事ばかりでつまらないと思っっているでしょう。これはその仕事を勝手にやってくれる用になるんですよ。」

「どういうことだ？」

「リモコン使うと身体が自動で動いて仕事をしてくれるんです。その間、意識は無くなりますが、終わったら勝手に起きます。」

「それが本当なら確かに楽だな」

「そうですね、お安くしときますのでお1ついかがでしょう」

別に信じたわけでもないが、特に高い値段でもなかったので買ってしまった。

家に帰り、早速説明書を読む。と言ってもすぐに終わってしまうが、何故なら紙が一枚、そこに、済ませたいことを思いながらスイッチを押す、これしか書いてないのだ。

「まあ、やってみるか」

特に期待せず、料理と思いスイッチを押す。

目の前に、焼き魚ができている。時間を見ると20分ほど過ぎていく。このリモコンは本物のようだ。過程が見えないので気味が悪いが。確かに楽だな。

翌日、朝起きると早速リモコンを使用してみる。内容は仕事。

今度はオフィスにいきなり飛ぶ。時間は定時を少し過ぎたところ。目の前にはきつちり仕上げられた書類がある。

これは便利だ。面倒なことをこれですませば、ストレスも貯まらないですむ。俺は好きなことだけすればいい。

リモコンによる自動化生活は本当に楽で気が付けば、リモコンを手に入れて2年が過ぎていた。

今、横には付き合っている彼女がいる。リモコンの俺は真面目らしく、会社でも出世し、回りの評判も良いらしい。そのせいが女性にもてるようになった。今はデート中と言うわけだ。

「ねえ、今会社ではなにしてるの？」

「え！え」と、大体書類整理で終わってるかな

「つまんな〜い。何かおもしろい話しないの？」

この手の質問は毎回困る。自分でもなんの仕事をしているのか分からないのだ。答えようがない。

「なんでもいいから、なんかないの？」

綺麗で性格もいい方だが、時々こうして俺をイライラさせる。鞆に手を入れスイッチを押す。

時間が飛び、一人帰りの電車に乗っていた。このところすぐイライラしてしまう。リモコンがあるので、キレたりすることは無いが、自分の時間が少なくなっているのがわかる。

「まあ、気にすることはないか」

駅から家に散歩がてら歩く。基本的に帰り道もリモコンを使うのだが、たまにはいいだろう。

キキキー、と耳障りな音が後ろから響く。振り返ると、強力なライトが目を焼く。直後、身体が宙に浮き、コンクリートの道路に叩き付けられる。

何が起きたのか理解できず頭が真っ白になる。しかし、直後襲ってくる激痛によって思考力が戻ってくる。激痛に耐え横を見ると、道路脇の壁に車が突っ込んでいた。どうやら俺は交通事故にあったよ

うだ。理解できると怒りが込み上げてくる。なぜ、俺なんだ。なぜ、みんな俺をイラつかせる。

幸い、近くに落ちていた鞆を探る。手探りでリモコンを探り当て、スイッチに指をのせる。

「もう、二度と俺な苦痛を与えるな！」

彼が事故にあってから半年過ぎた。事故の後遺症で、右足が動かなくなり、生活はかなり不自由になった。けど、そのお陰と言っては悪いがか彼との距離が近くなった。今度、退院と同時に結婚することも決まった。

今日も彼のお見舞いだ。彼が私を見つけ、手を振っている。私も手を降りながら小走りで彼の元に向かう。今、私は幸せだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1179i/>

---

リモコン

2010年11月5日13時36分発行